

高知県民総幸福度（GKH）に関するアンケート調査 にかかると総括レビューとりまとめ結果

2022年4月20日

土佐経済同友会GKH委員会
一般社団法人しあわせ推進会議
高知大学次世代地域創造センター

本レビューについて

高知県県民総幸福度（Gross Kochi Happiness: GKH）は、GDPや経済成長など物質的豊かさという従来の価値基準だけでは測ることが難しい幸福実感を捉え、高知県独自の豊かさの指標・「高知県民総幸福度（Gross Kochi Happiness（GKH）」の指標づくりを進めていくため、土佐経済同友会GKH委員会によって2013年度からアンケート調査が実施されています。

本レビューは、これまで計6回（2013年度、2014年度、2016年度、2019年度、2020年度、2021年度）実施されてきた高知県県民総幸福度（以下、「GKH」という。）にかかるアンケート調査結果について、高知県民が感じる主観的な幸福実感に関して、マクロ的に見たその特徴や傾向を捉え、総括的なレビューを行うものである。

なお、アンケート調査項目は、2019年度から大幅に改定がなされており、アンケート実施当初から現在に至るまでの推移の把握や経年比較が難しい内容となっている一方、2019年度以降は若干のマイナーチェンジを重ねながら、ほぼ毎年同様の調査項目でアンケートが実施されている。このため、本調査では、GKH調査を開始した当初から共通して捉えている一部項目での比較レビューに加えて、特に全体的な主観的幸福度との関係については、2019年度から2021年度の3年間の比較分析を中心にカバーしている。

GKHアンケート調査の概要

	実施年度	調査実施期間	調査対象	有効回答数※	調査方法
第1回	2013年度	要確認	20歳以上の高知県 在住者	3,371	質問票の送付による アンケート調査
第2回	2014年度	要確認	満15歳以上の高 知県在住者	2,303	質問票の送付による アンケート調査
第3回	2016年度	要確認	満15歳以上の高 知県在住者	8,911	質問票の送付による アンケート調査
第4回	2019年度	2019年7月17日 ～7月31日	満15歳以上の高 知県在住者	4,078	質問票の送付による アンケート調査 WEBアンケート
第5回	2020年度	2020年7月1日～ 7月21日	満15歳以上の高 知県在住者	4,016	質問票の送付による アンケート調査 WEBアンケート
第6回	2021年度	2021年7月1日～ 7月21日	満15歳以上の高 知県在住者	4,283	質問票の送付による アンケート調査 WEBアンケート

※高知県在住者の有効回答数

全6回実施したアンケートにのべ26,962人が回答。

総括

高知県県民総幸福度（Gross Kochi Happiness: GKH）は、GDPや経済成長など物質的豊かさという従来の価値基準だけでは測ることが難しい幸福実感を捉え、高知県独自の豊かさの指標を指標づくりを進めていくため、土佐経済同友会GKH委員会によって2013年度から断続的に、2019年度以降は毎年アンケート調査が実施されてきました。

2013年度から2021年度まで計6回にわたって実施されたGKHアンケート調査には、延べ26,962人の方がアンケートに参加いただきました。

この膨大な調査データに基づき、本レビューは、高知県民が感じる主観的な幸福実感や幸福実感をもたらす様々な社会活動分野についての幸福実感をマクロ的にその特徴や傾向を掴むことで、高知県らしい真の豊かさの見える化を図る試みを行いました。

GKHアンケート調査は、調査実施当初の2013年度から随時改定が加えられており、アンケート実施当初から現在に至るまでの全ての項目の推移の把握や経年比較がが難しい内容となっておりますが、2019年度以降は若干のマイナーチェンジを重ねながら、ほぼ毎年同様の調査項目でアンケートが実施されてきました。

このため、本調査では、GKHアンケート調査を開始した当初から共通して捉えている一部項目での比較レビューに加えて、2019年度から2021年度の3年間の比較分析の対象とし、特に全体的な主観的幸福度との関係について分析を行いました。

総括

1. 各年度共通項目の推移について

2013年度から全調査回において共通してアンケートを実施してきた項目は、「あなたは高知県で暮らして幸せだと感じますか？」です。この点に関して、2014年度に最も高い実感を示しましたが、全体の推移としては余り変化がないと考えられます。

2. 主観的幸福度の傾向について

2019年度より計3回、人々の幸福度を測定する際に用いられている主観的幸福度尺度（SWB）を新たに追加しました。これは、1を「非常に不幸である」から10を「非常に幸福である」として人々の主観的な幸福実感を数値化して捉える尺度です。この尺度は、幸福度に関する政策を実施する一部の自治体で用いられており、当初土佐経済同友会GKH委員会は、本GKH調査構築の際に参考とした荒川区や熊本県等の取り組みをベンチマークとして用いました。

「あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか？」の質問について、2020年度に0.09ポイント上昇したものの、こちらも全体としてはあまり変化はなく、概ね6.6ポイント台で推移しています。

次に、過去3年間（2019-2021）における性別でみた全体の幸福実感について、男性より女性のほうが幸福実感が高い傾向にあり、また女性は幸福実感が若干上昇トレンドの傾向が見受けられる。

総括

また、2019年度から2021年度における世帯別にみた主観的幸福度の推移を見ると、1人暮らし世帯における全体の幸福実感は減少傾向が見受けられる一方、夫婦のみ世帯における全体の幸福実感は若干上昇傾向にありました。

一方、年齢層別でみた主観的幸福度の推移（2019－2021）を見ると、総じて20～29歳の主観的幸福度が他の年齢層に比べて低く、世帯別の主観的幸福度の傾向を踏まえると、高知県民の主観的幸福度について、単身暮らしの若年層の幸福度の低さが特徴的といえるかもしれません。加えて、70代以上の幸福実感は毎年上昇傾向が見られます。このことは、高齢化が進む高知県において、年老いても幸せに暮らせる実感を有する地域として希望を見出せる可能性があると思います。

3. 地域別にみた主観的幸福度について

高知県を7つの地域ブロック（安芸、物部川、高知市、嶺北、仁淀川、高幡、幡多）別に区分し、過去3年間（2019-2021年度）における各地域ブロックの全体の主観的幸福度については、幡多地域の幸福実感に上昇傾向が見受けられます。一方、嶺北地域及び高幡地域には毎年減少傾向が見受けられます。

加えて、各地域ブロックを構成する市町村別に主観的な幸福実感について見たところ、以下の傾向が見られました。

総括

なお、各市町村別の主観的幸福度は、各市町村で回答サンプル数に大きな差があり、ばらつきが大きいいため、あくまで参考値として示しています。

また、上記に示したレーダーチャートの基準値は統一して掲載していません。あくまで図表にて傾向を見やすくするために表示を変えています。

＜安芸地域＞

2019年度から直近の2021年度にかけて全体的な主観的幸福実感が上昇傾向にある市町村は芸西村でした。一方、2019年度から2021年にかけて幸福実感が下降傾向にある市町村は東洋町でした。

＜物部川地域＞

2019年度から2021年度にかけて幸福実感が毎年上昇傾向にある市は、香美市、香南市でした。一方、幸福実感が下降傾向にある市は見受けられませんでした。

＜高知市地域＞

高知市地域（高知市のみ）の全体の幸福実感について、2019年度から2021年度にかけての幸福実感、上昇及び下降傾向いずれも見受けられませんでした。

＜嶺北地域＞

本山町は、主観的幸福実感が毎年上昇傾向にある一方、大豊町及び土佐町の主観的幸福実感、下降傾向が見られます。

総括

＜仁淀川地域＞

越知町は、2019年度から毎年主観的幸福実感が上昇傾向にある一方、下降傾向にある市町村は見受けられません。

＜高幡地域＞

高幡地域の各市町村における全体の幸福実感について、2019年度から2021年度にかけて幸福実感が上昇傾向にある市町村は見受けられません。須崎市、津野町は、幸福実感が下降傾向にあります。

＜幡多地域＞

幡多地域は、全体的に主観的幸福度の推移にあまり変化がなく、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇傾向にある市町村は宿毛市のみでした。一方、主観的幸福実感が下降傾向にある市町村は三原村のみとなっています。

4. 人生満足度について

人生満足度の尺度は、より長期的な主観的幸福度を図る尺度として用いられることがあり、2019年度よりGKHアンケート調査に導入されました。人生満足度の測定には次の5つの尺度が用いられています。すなわち、①ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い、②私の人生は、とても素晴らしい状態だ、③私は自分の人生に満足している、④私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた、⑤もう一度人生をやり直せるとしてもほとんど何も変えないだろう、です。

総括

これら各項目について1点（満足度が低い）から7点（満足度が高い）の総和の最大を35点、最小を5点として計算します。

2019年度より調査を開始した人生満足度の平均値に関する過去3年間の推移についてみたところ、2019年度と2021年度の差は、0.3ポイント減少しているが、顕著な変化は見受けられません。2020年の新型コロナウイルス感染症拡大による経済社会への影響は大きい状況ですが、より長期的な高知県民の主観的幸福実感にはあまり大きく影響していない状況が伺えます。

5. 各分野ごとの幸福実感について

人々の幸福度に影響すると考えられる健康・人とのつながり、子育て・教育、働くこと、生活環境、文化・地域、安心・安全、お住いの都道府県（高知県）について、各分野ごとの主観的幸福実感の年次推移を見たところ、2013年の調査以来、総じて大きく変化が見られるとはいえない傾向が伺えました。他方、個別の項目に着目すると、一部の項目分野には変化が見られます。

<健康や人とのつながり>

健康や人とのつながりに関する平均幸福実感について、上昇傾向にある分野は、「家族と過ごす時間があること」。これは、新型コロナウイルス感染症拡大による自宅時間が増加したことの影響が考えられます。

総括

一方、下降傾向にある分野は、「いざという時に頼れる人が身近にいること」、「身近に信頼できる医療機関があること」。地域コミュニティの希薄さが年々顕著になっている課題が見受けられます。

<子育て・教育>

子育て・教育に関する平均幸福実感については、「子どもたちが社会生活上、必要な知識や技能、社会性、体力などを総合的に身につけていること」に若干下降傾向が見られます。子どもたちへの教育の充実は、子どもたちのみならず、地域全体の暮らしやすさや豊かさの実感に影響を及ぼすと考えられるため、当分野の改善が課題と言えます。

<働くこと>

働くことに関する各項目の平均幸福実感の推移について、全体的に上昇傾向にあったにも関わらず、コロナ禍の影響によって変化が鈍化しているように考えられます。一方、「組織への愛着」については、毎年下降傾向にあります。このことはコロナが影響しているかどうかは一概には言えず、更なる調査が必要であると考えます。

<生活環境>

生活環境に関する各項目の平均幸福実感について、顕著な傾向は見られません。

総括

<文化・地域>

文化や地域に関する各項目の平均幸福実感について、下降傾向にある分野は、「興味関心のある活用や行事」。新型コロナウイルス感染症拡大による地域でのイベント活動の減少が影響として考えられます。一方、文化地域のその他項目について上昇傾向にある事項は見受けられません。

<安心・安全>

安心や安全に関する各項目の平均幸福実感の推移について、顕著な傾向が見られないものの、ウィルス対策への備えが充分であることについて、2020年度に比べて2021年度の実感が高まっています。

<高知県について>

高知県に関する各項目の平均幸福実感について、「住んでいる地域が域外から見ても魅力があると感じるか」について、2013年度と2021年度を比較すると、0.2ポイント上昇しており、全体に上昇傾向が高まっています。

先に述べたとおり、「高知県で暮らして幸福を感じますか？」の質問については、GKHアンケート調査の開始以来、毎回調査してきた項目です。2014年に最も実感が高かったものの、全体の傾向としては大きく変化していないように見受けられます。

総括

6. まとめ

全体を通じて、高知県県民の幸福実感について顕著な変化が生じている分野はさほど多くないことが伺えます。

一方、これまで上昇傾向にあった一部幸福実感に、新型コロナウイルス感染症拡大によってマイナスの影響があることが考えられます。コロナ禍の状況と各分野への影響をどこまで関連づけられるかについては、本調査では詳細な調査が行われていないため、現時点では更なる調査が必要であると言わざるを得ません。

加えて、特に高知県に暮らす若年層の主観的幸福度の低さや、教育、コミュニティとの関係の希薄さの増加、が課題であると思われます。

性別や世代によって幸福実感の差があること自体、持続可能な開発目標（SDGs）の理念である「誰一人取り残さない」を中心に据え、脆弱な立場に置かれている人々への配慮が求められます。

他方、高知県民の幸福実感についてよい傾向も見られます。特に高齢者層の幸福実感の高さが見られるとともに、より人生満足度が安定して高い傾向が見られます。また、身近に自然を感じられる環境への実感が上昇トレンドにあるのではと考えられます。これは、高知県の大きな魅力をさらに高められる要素であり、自然環境の豊かさと人々の幸福向上との関係性をさらに検証すべきと考えます。

総括

これまでのGKHアンケート調査全体を検証して見えてきた様々な課題への対策強化、並びに人々の幸福実感の向上を中心に据えて、既存の経済・産業指標では掴みきることができない真の豊かさを追求することで地域の価値を高め、ひいては持続可能な地域社会の形成に向けて本調査に活かしていただければ幸いです。

幸福実感の質問項目について

2019年度～2021年度に関する幸福度の質問項目は以下のとおり。

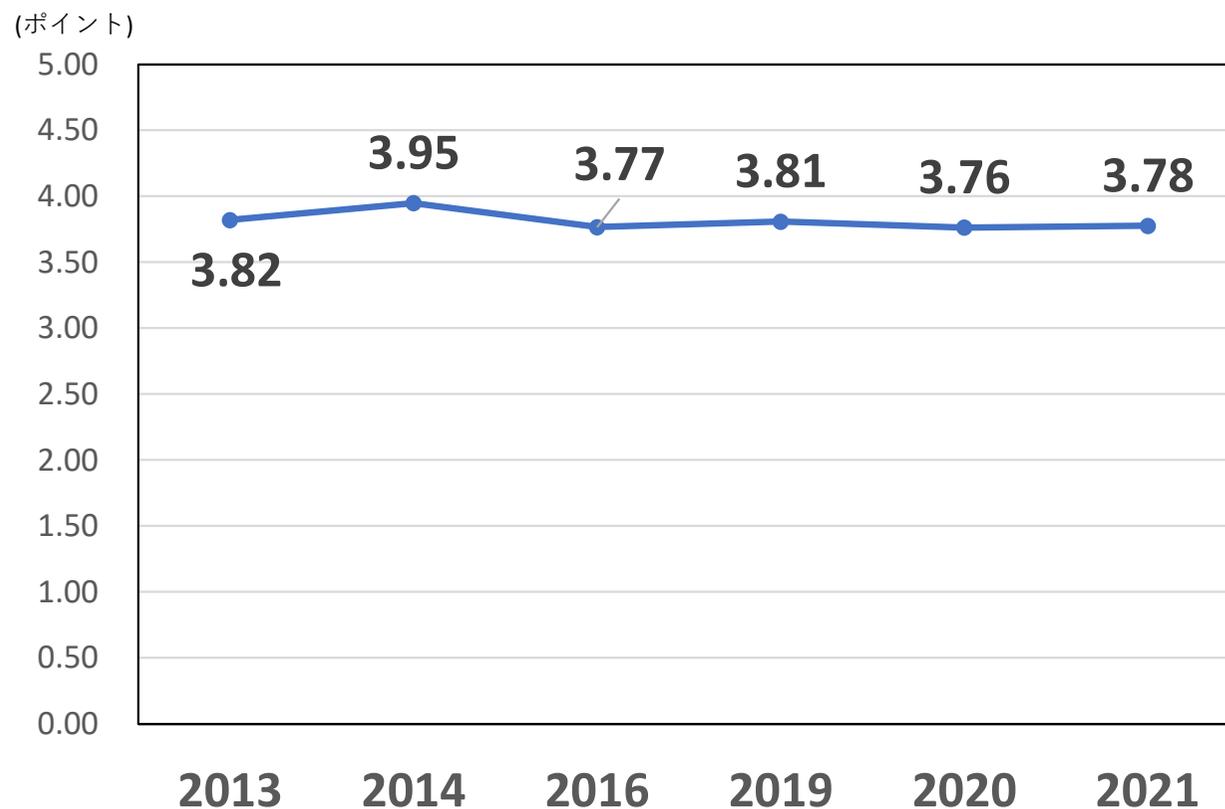
- 主観幸福度（SWB）は10段階の尺度を用いて調査。10段階のうち10を「非常に幸福である。」から0を「非常に不幸である。」という主観的な幸福実感を尋ねている。
- なお、「10段階尺度での幸福度」の質問に回答していない回答は集計から除外している。
- 人生満足度は、回答された番号（1から7まで）を点数化し、総和の最大を35点、最小を5点とし、「不明・無回答」を有効回答数から除外している。
- 各分野について、「健康・人とのつながり」、「子育て・教育」、「働くこと」、「生活環境」、「文化・地域」、「安心・安全」、「お住いの都道府県」の8分野について、各質問項目の実感度を質問している。
- 各分野の質問に対する幸福度1から5までの回答について、実感度1を1点、2を2点、3を3点、4を4点、5を5点とし、「わからない」・「無回答」を有効回答数から除外している。

全実施回共通項目の推移

お住いの都道府県について

「あなたは（お住まいの都道府県※高知県）で暮らして幸せだと感じますか？」

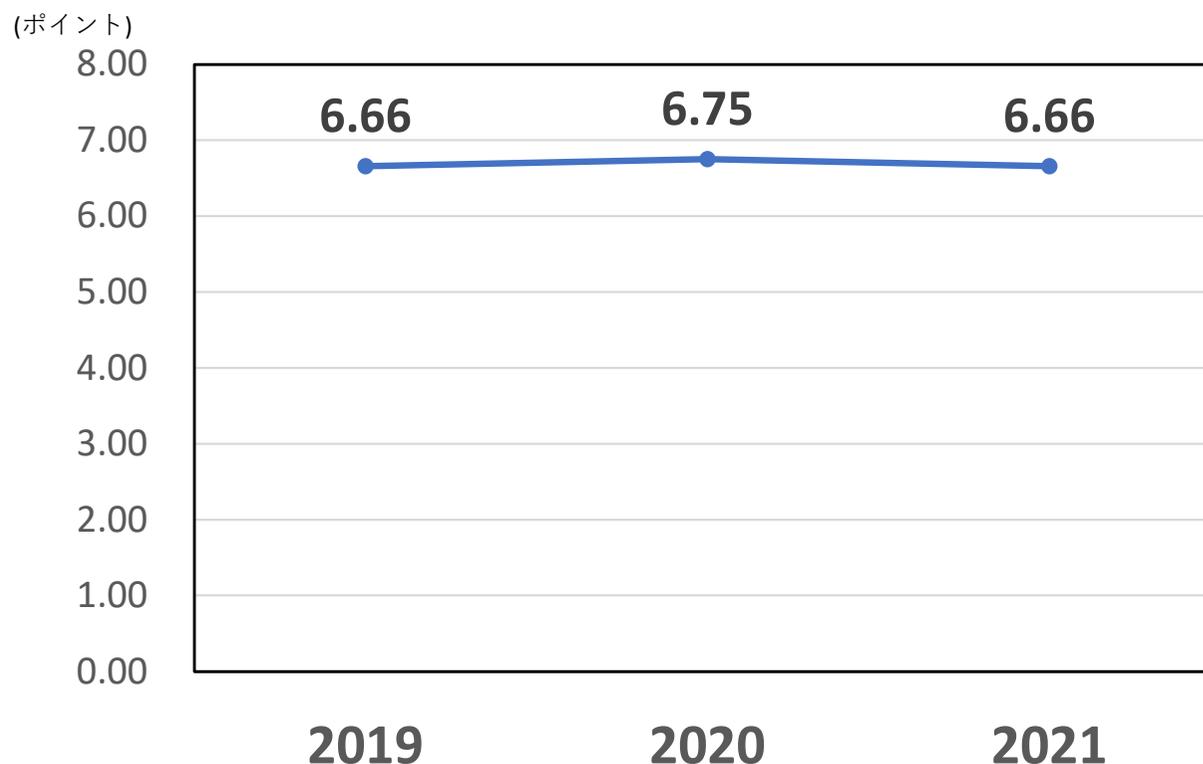
2013年度から過去6回実施したGKHアンケート調査において、全実施回共通の質問項目は、「あなたは（お住まいの都道府県※高知県）で暮らして幸せだと感じますか？」のみであった。本質問に対して、2014年度が最も高いが、全体の推移としては余り変化がないと考えられる。



全体の幸福実感の推移

過去3年間における全体の幸福実感（「普段どの程度幸福だと感じていますか？」：SWB）について、2020年度に0.09ポイント上昇したものの、全体としてあまり変化はなく、概ね6.6ポイント台で推移している。

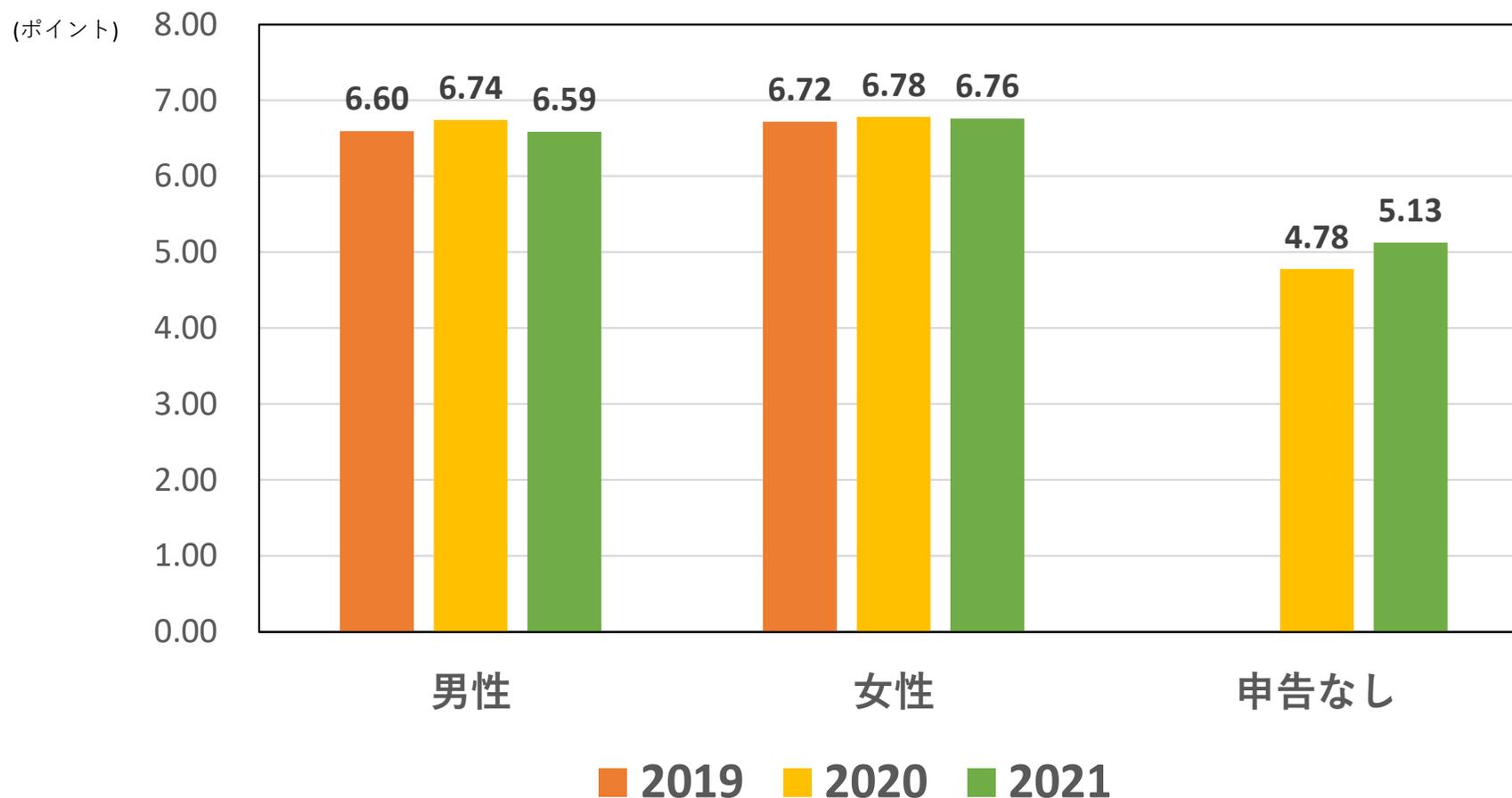
過去3年間の全体の幸福実感の推移【10段階尺度】



※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

性別でみた主観的幸福度の推移（2019—2021）

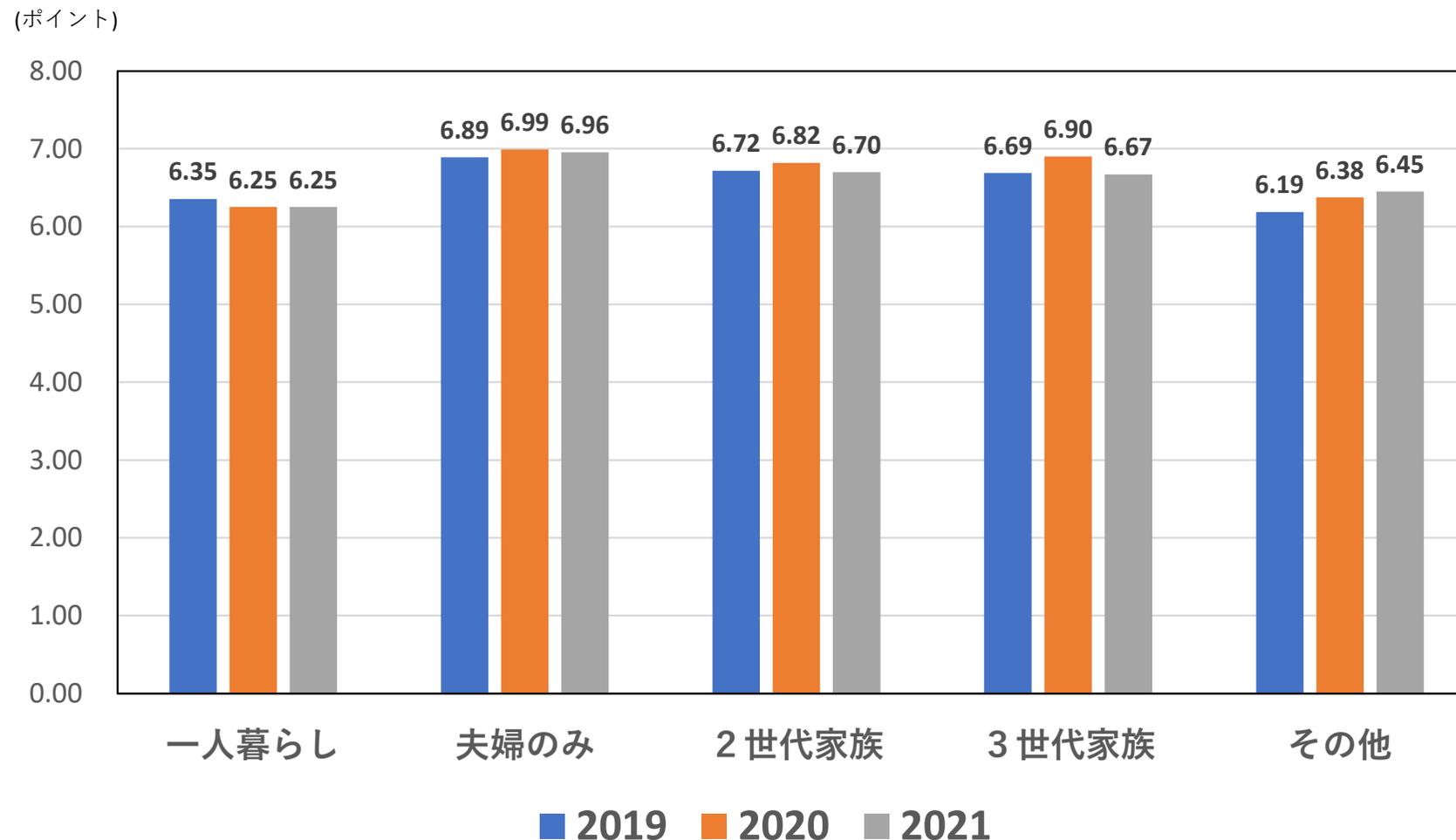
過去3年間（2019-2021）における性別でみた全体の幸福実感について、男性より女性のほうが幸福実感が高い傾向にあり、また女性は幸福実感が若干上昇トレンドの傾向が見受けられる。



※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

世帯別でみた主観的幸福度の推移（2019—2021）

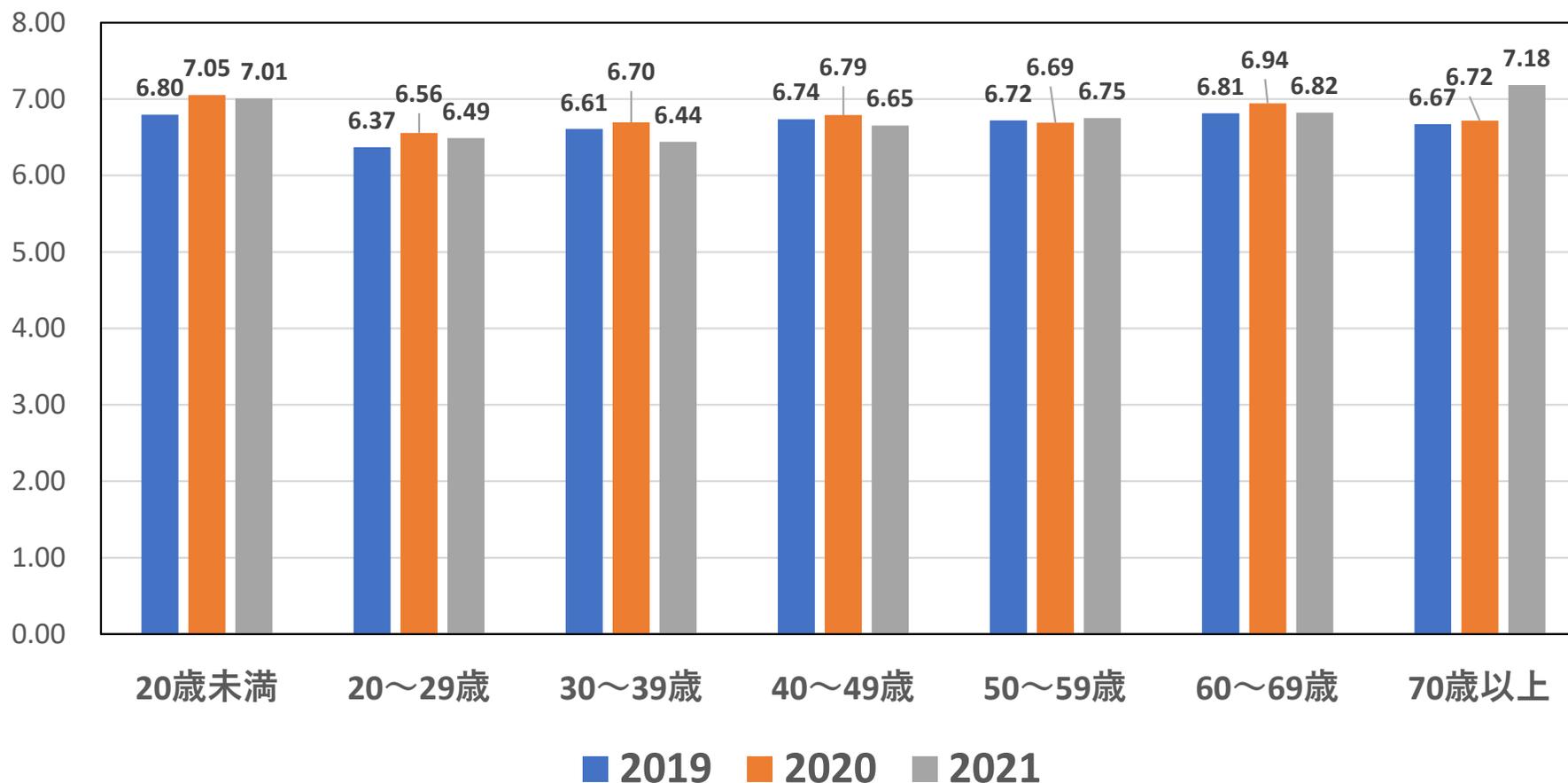
1人暮らし世帯における全体の幸福実感は減少トレンドが見受けられる。
一方、夫婦のみ世帯における全体の幸福実感は若干上昇傾向にある。



年齢層別でみた主観的幸福度の推移（2019—2021）

過去3年間（2019-2021年度）における年齢層別でみた全体の幸福実感については、70代以上の幸福実感の上昇トレンドが見受けられる。一方、その他の年齢層には顕著なトレンド差が見られない。

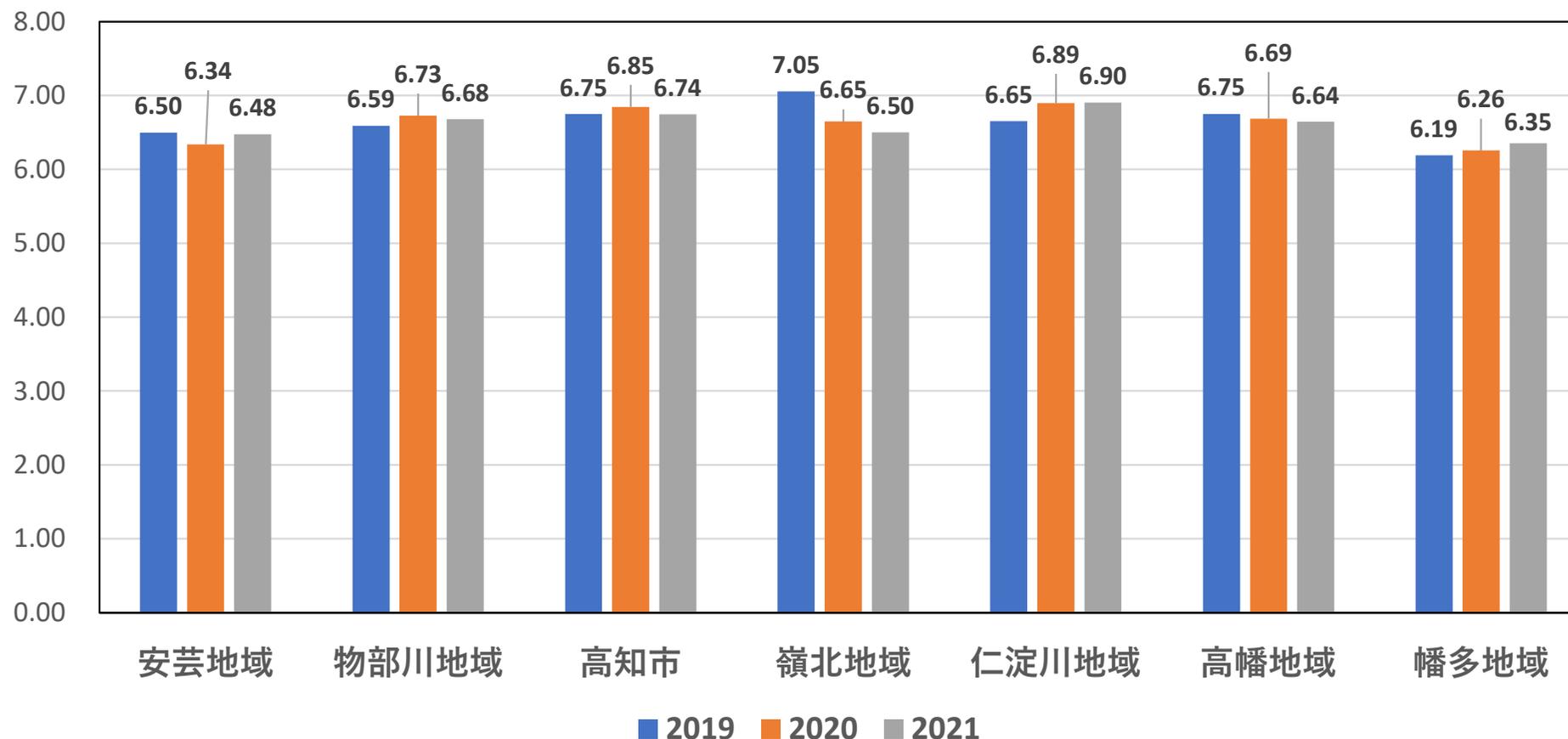
(ポイント)



地域ブロック別でみた主観的幸福度の推移（2019—2021）

過去3年間（2019-2021年度）における地域ブロック別でみた全体の幸福実感については、幡多地域の幸福実感の上昇傾向が見受けられる。一方、嶺北地域及び高幡地域には減少傾向が見られる。

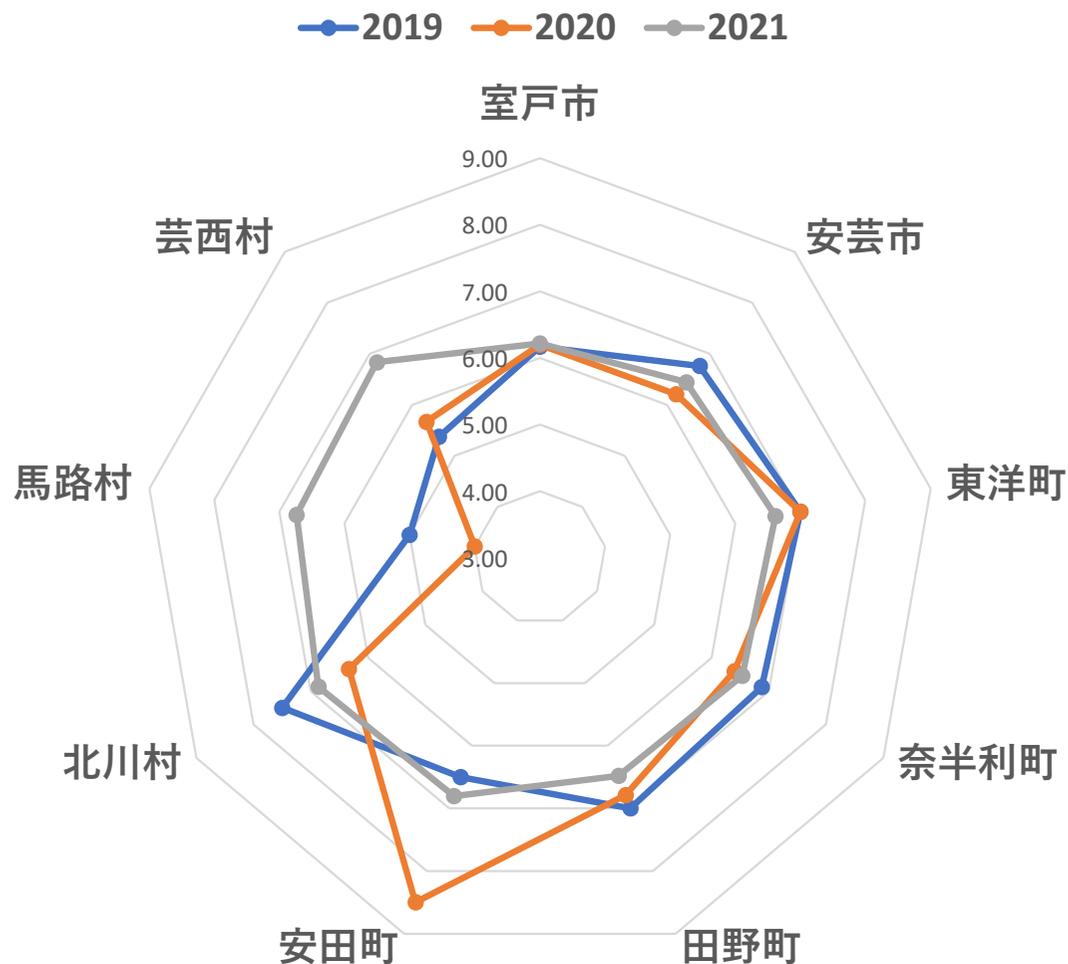
(ポイント)



※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

安芸地域の主観的幸福実感（2019-2021） ※参考値

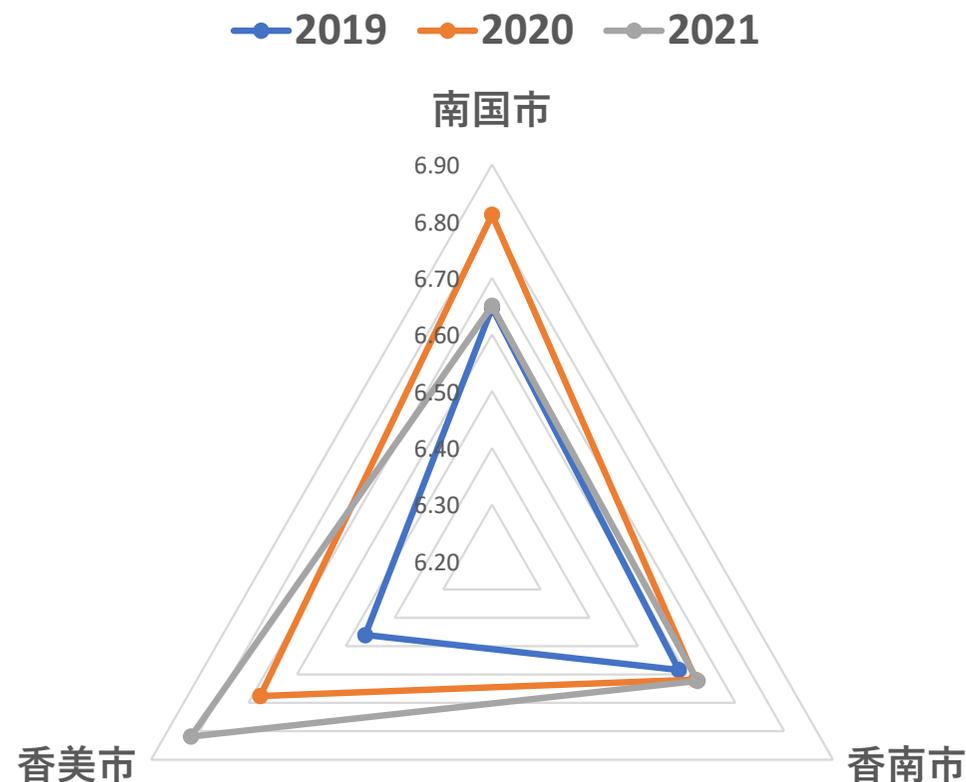
過去3年間（2019-2021年度）における安芸地域ブロックの各市町村における全体の幸福実感について、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇傾向にある市町村は、芸西村。
一方、2019年度から直近にかけて幸福実感が下降傾向にある市町村は、東洋町。



(注) サンプル数に大きな差があるためあくまで参考値として示す。
※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

物部川地域の主観的幸福実感（2019-2021） ※参考値

過去3年間（2019-2021年度）における物部川地域ブロックの各市町村における全体の幸福実感について、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇傾向にある市は、香美市、香南市。
一方、2019年度から直近にかけて幸福実感が下降傾向にある市は見受けられない。

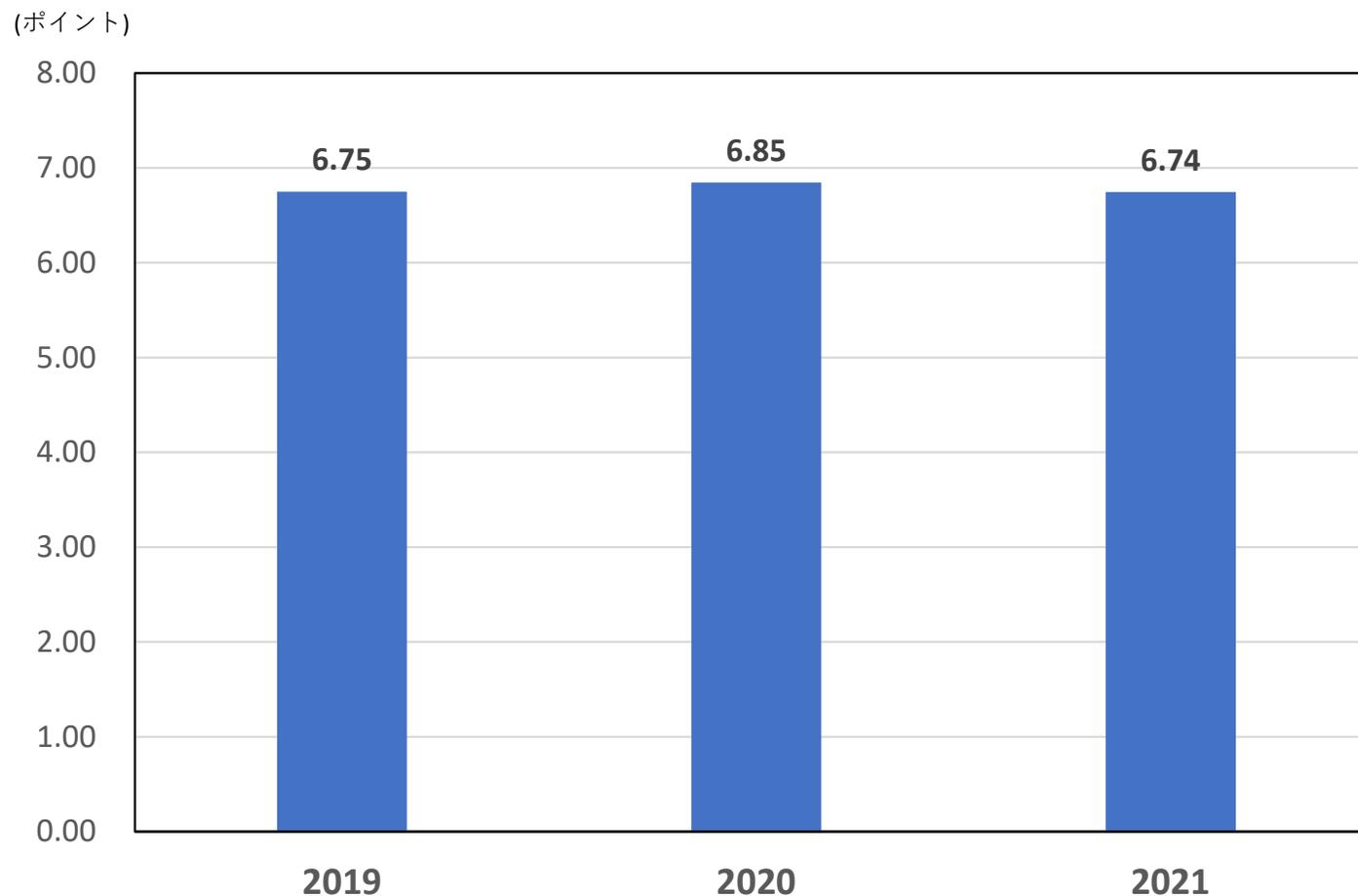


(注) サンプル数に大きな差があるためあくまで参考値として示す。

※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

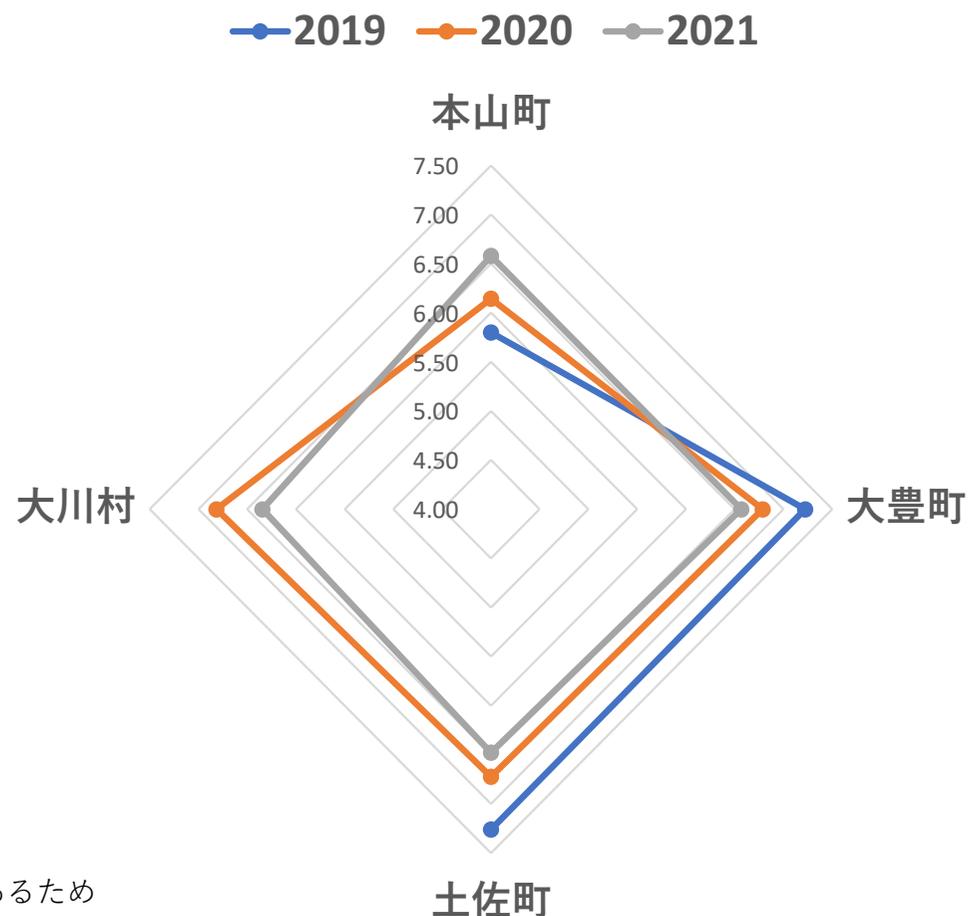
高知市地域の主観的幸福実感（2019-2021） ※参考値

過去3年間（2019-2021年度）における高知市地域（高知市のみ）の全体の幸福実感について、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇及び下降傾向いずれも見受けられない。



嶺北地域の主観的幸福実感（2019-2021） ※参考値

過去3年間（2019-2021年度）における嶺北地域ブロックの各町村における全体の幸福実感について、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇傾向にある町村は、本山町。
一方、2019年度から直近にかけて幸福実感が下降傾向にある町村は、大豊町、土佐町。



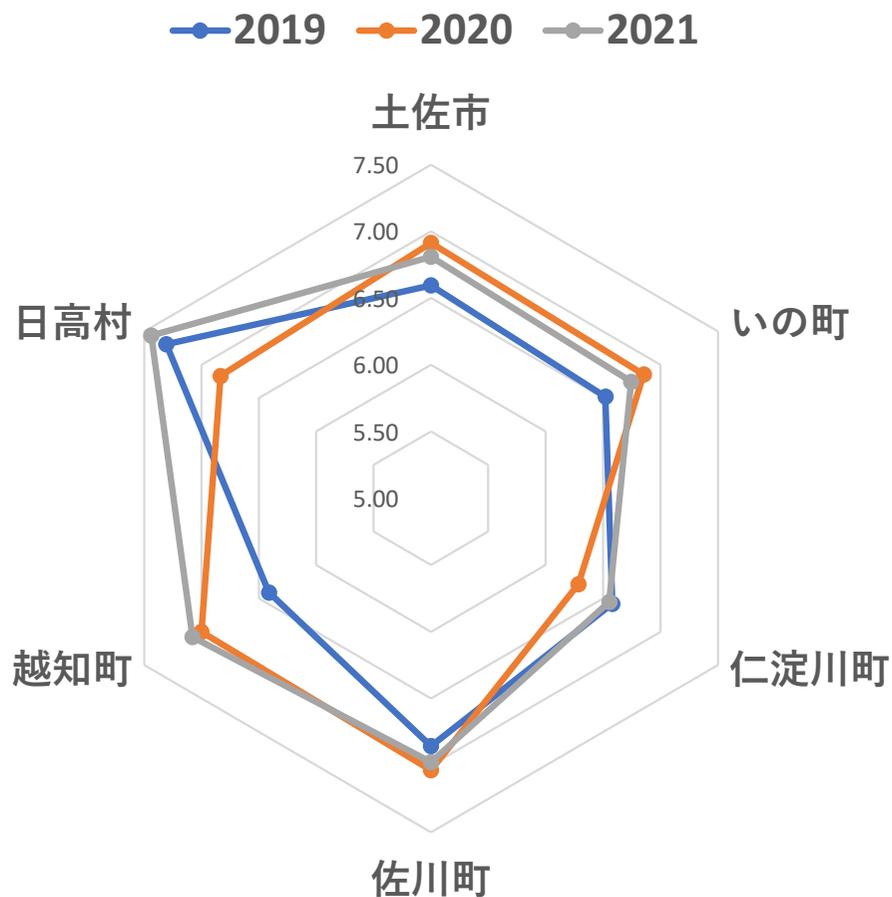
（注）サンプル数に大きな差があるためあくまで参考値として示す。

※2019年度における大川村の回答なし。

※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

仁淀川地域の主観的幸福実感（2019-2021） ※参考値

過去3年間（2019-2021年度）における仁淀川地域ブロックの各市町村における全体の幸福実感について、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇傾向にある市町村は、越知町。
一方、2019年度から直近にかけて幸福実感が下降傾向にある市町村は見受けられない。

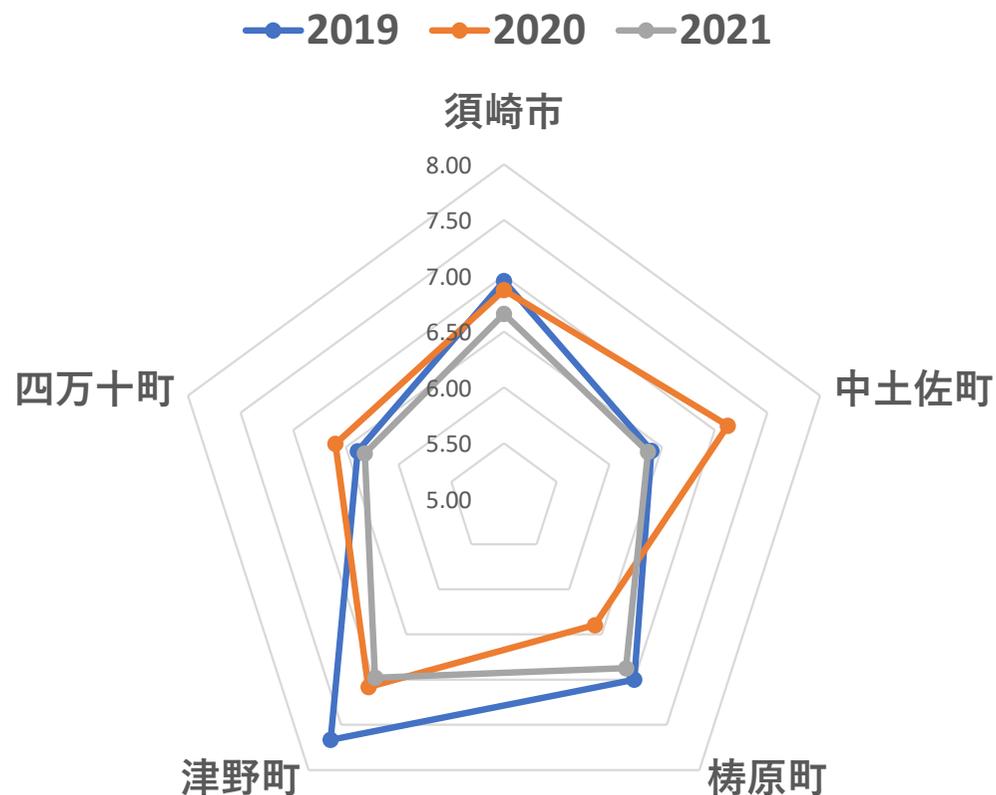


(注) サンプル数に大きな差があるためあくまで参考値として示す。

※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

高幡地域の主観的幸福実感（2019-2021） ※参考値

過去3年間（2019-2021年度）における高幡地域ブロックの各市町村における全体の幸福実感について、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇傾向にある市町村は見受けられない。
一方、2019年度から直近にかけて幸福実感が下降傾向にある市町村は、須崎市、津野町。

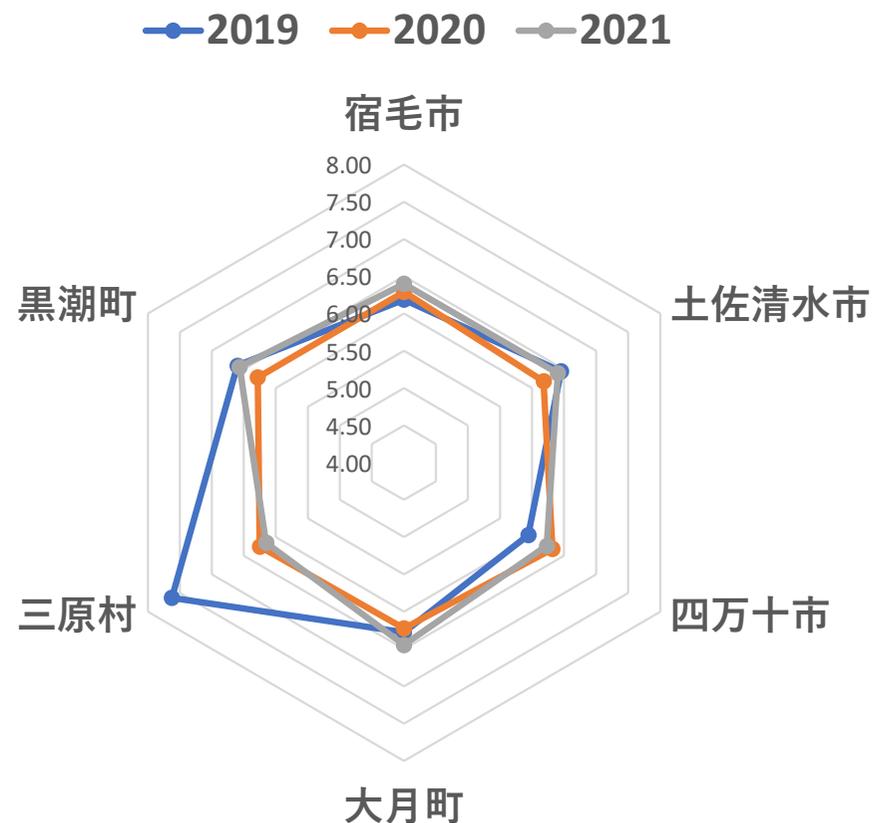


(注) サンプル数に大きな差があるためあくまで参考値として示す。

※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

幡多地域の主観的幸福実感（2019-2021） ※参考値

過去3年間（2019-2021年度）における幡多地域ブロックの各市町村における全体の幸福実感について、2019年度から直近にかけて幸福実感が上昇傾向にある市町村は、宿毛市。
一方、2019年度から直近にかけて幸福実感が下降傾向にある市町村は、三原村。

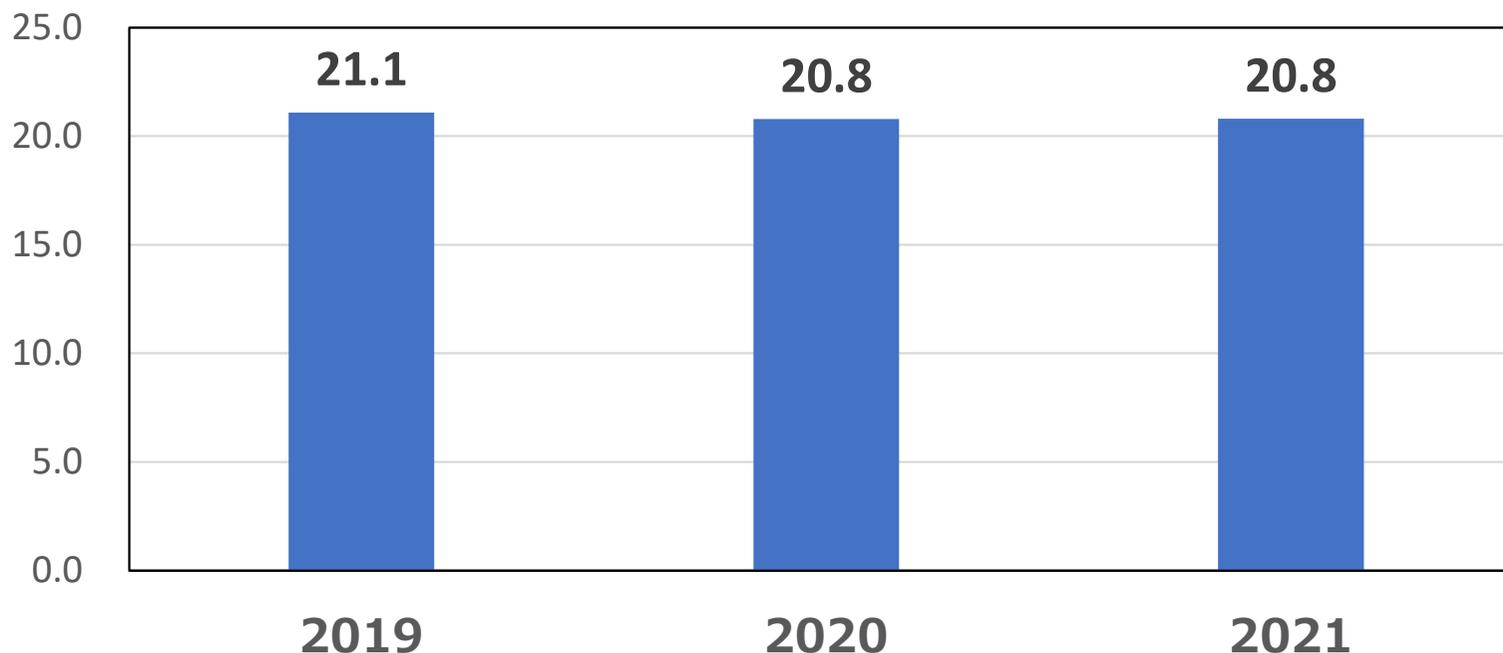


(注) サンプル数に大きな差があるためあくまで参考値として示す。

※2013年度,2014年度,及び2016年度は、SWBの該当質問項目なし。

人生満足度の推移（2019-2021）

2019年度より調査を開始した人生満足度の平均値に関する過去3年間の推移について見たところ、2019年度と2021年度の差は、0.3ポイント減少しているが、顕著な変化は見受けられない。



人生満足度の尺度

1. ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い。
2. 私の人生は、とても素晴らしい状態だ
3. 私は自分の人生に満足している。
4. 私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた。
5. もう一度人生をやり直せるとしても、ほとんど何も変えないだろう。

※ 1～7点の総和の最大を35点、最小を5点として計算。

（参考）

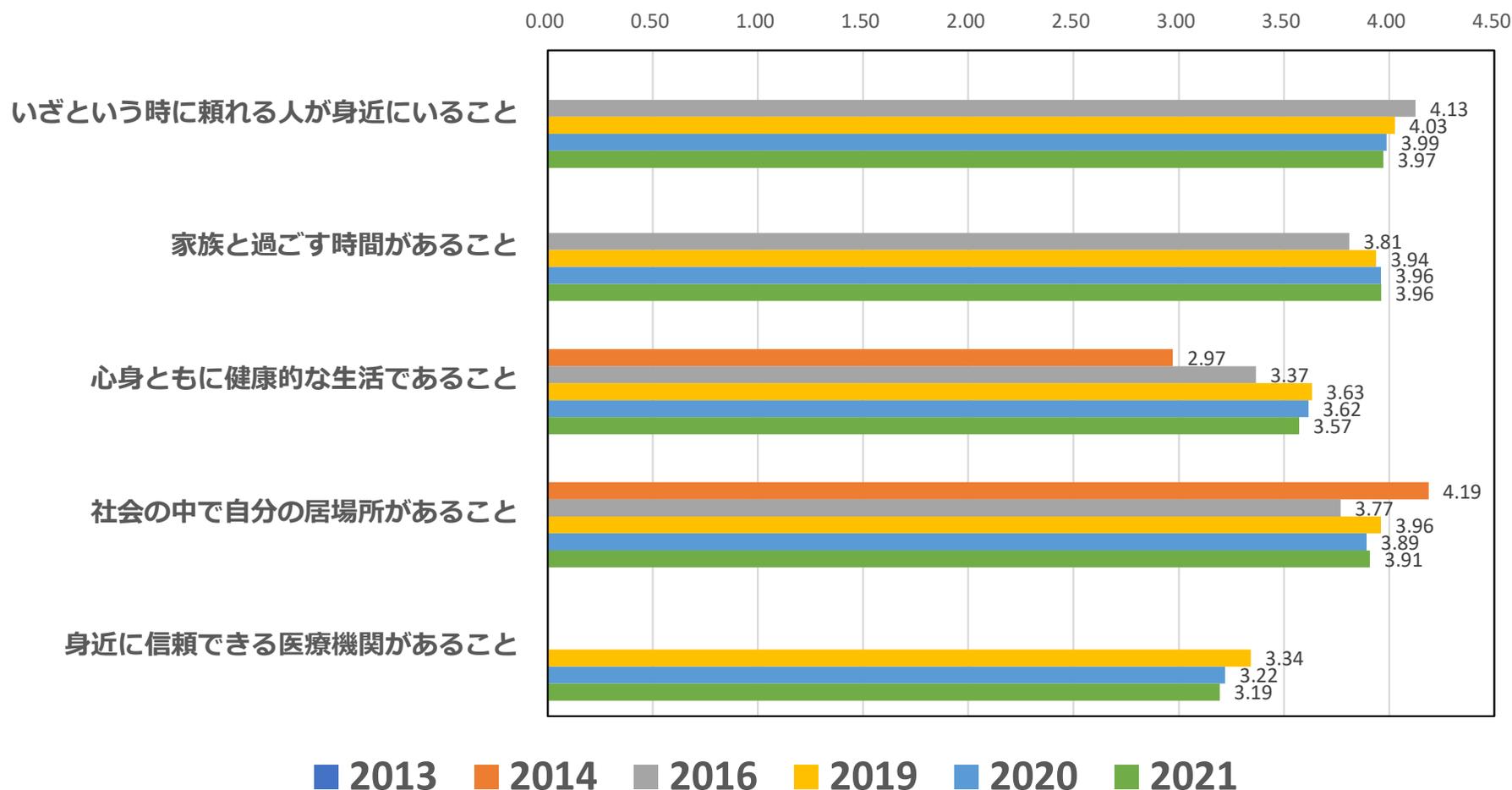
日本人1,500人のインターネット調査(2011年)において、点数分布は、平均18.9点。

（出典：前野（2013）「幸せのメカニズム：実践・幸福学入門」）

各分野の平均幸福実感度の推移

【健康や人とのつながり】

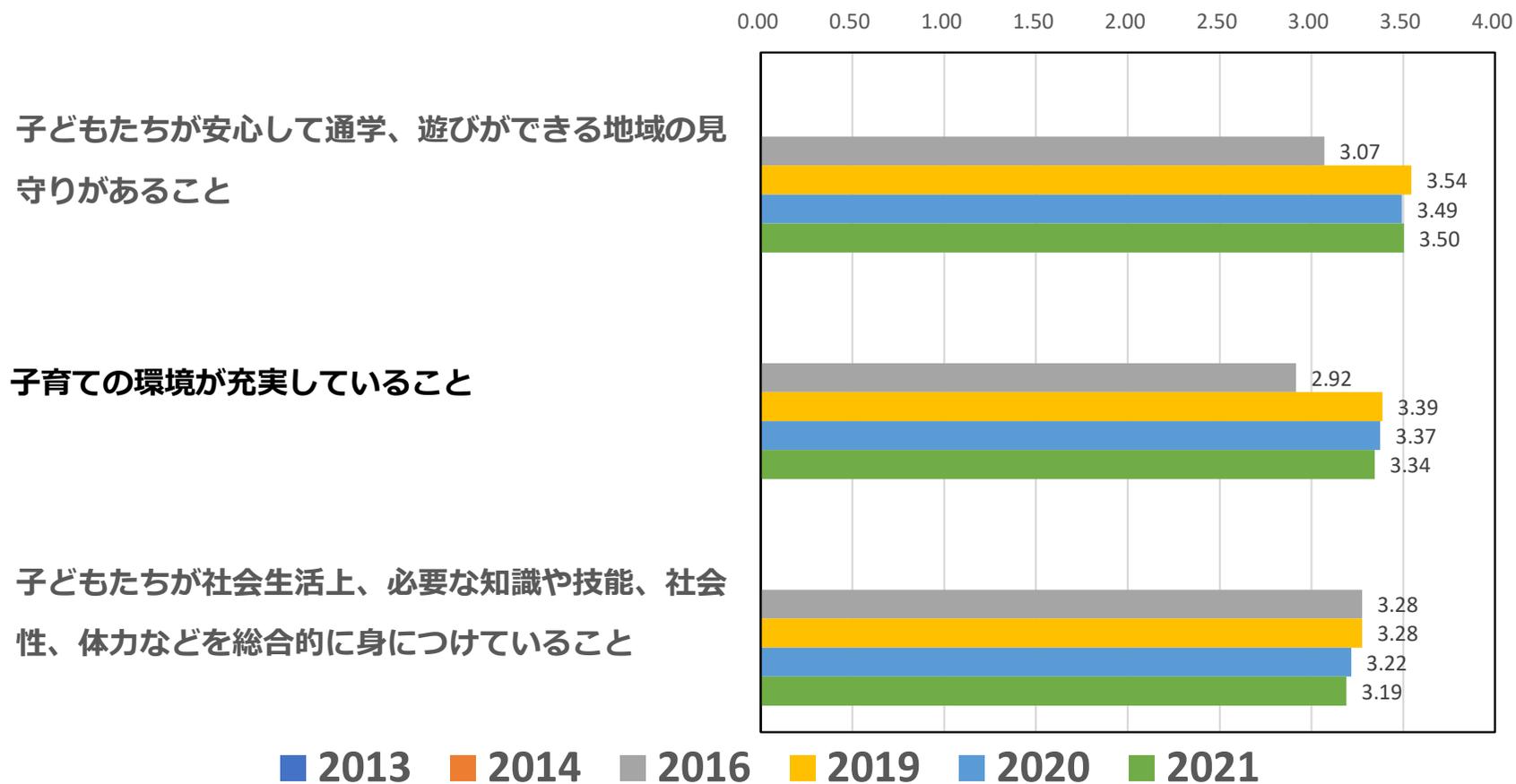
健康や人とのつながりに関する平均幸福実感について、上昇傾向にある分野は、「家族と過ごす時間があること」。コロナウィルス感染症拡大による自宅時間が増加したことの影響が考えられる。一方、下降傾向にある分野は、「いざという時に頼れる人が身近にいること」、「身近に信頼できる医療機関があること」。地域コミュニティの希薄さが年々顕著になっている課題が見受けられる。



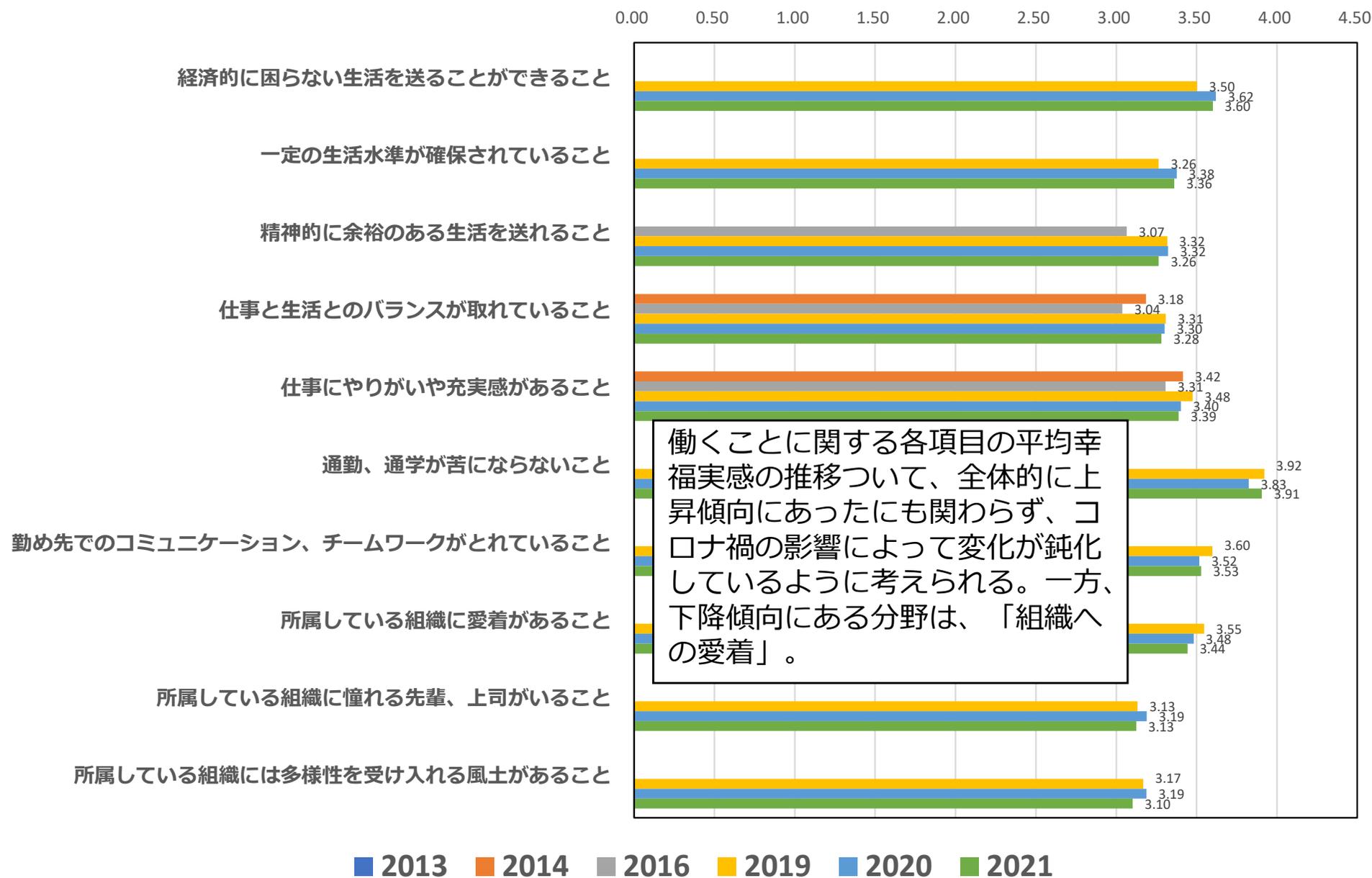
各分野の平均幸福実感度の推移

【子育て・教育】

子育て・教育に関する平均幸福実感について、若干下降傾向にある分野は、「子どもたちが社会生活上、必要な知識や技能、社会性、体力などを総合的に身につけていること」。



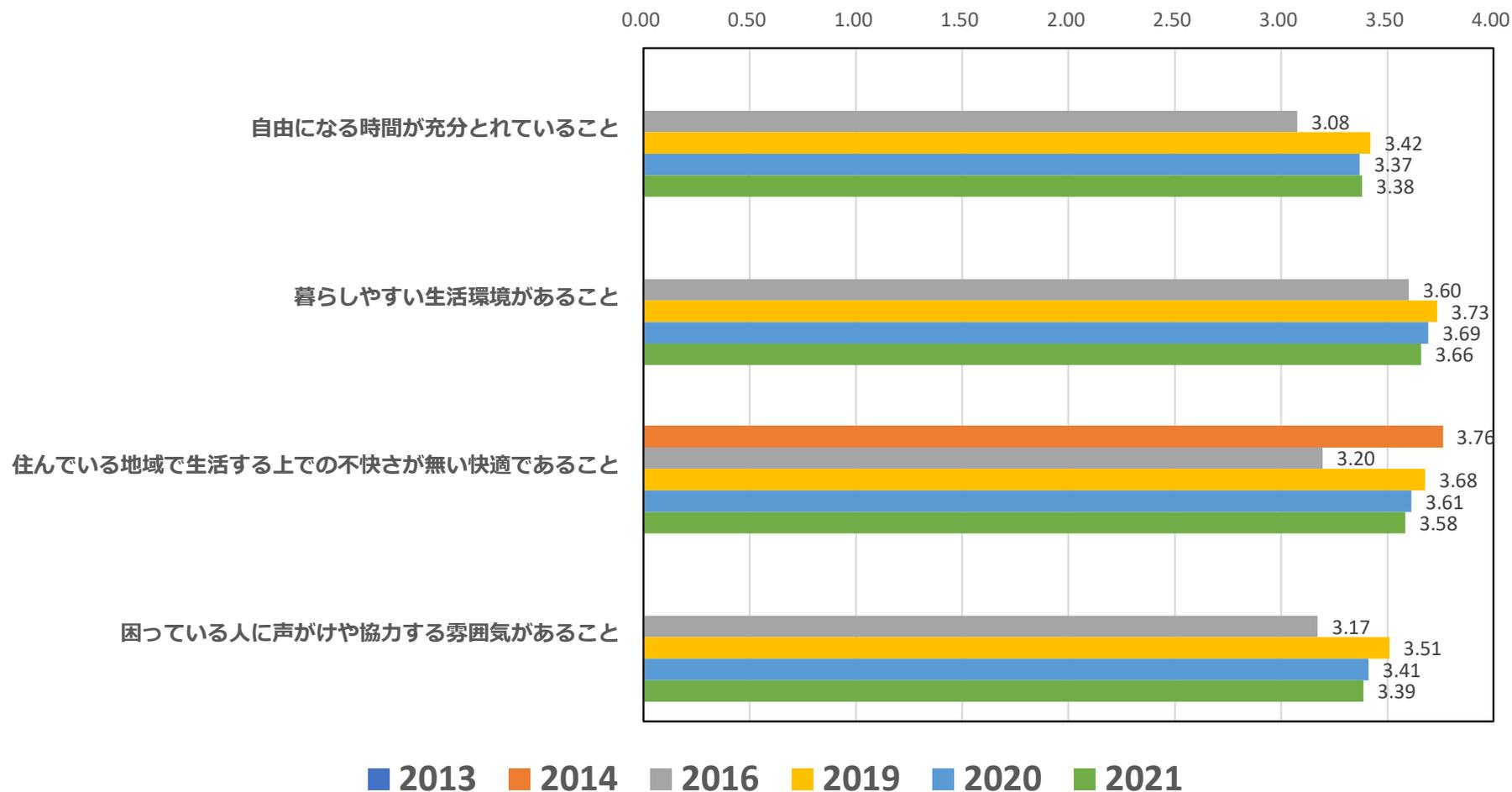
各分野の平均幸福実感度の推移 【働くこと】



各分野の平均幸福実感度の推移

【生活環境】

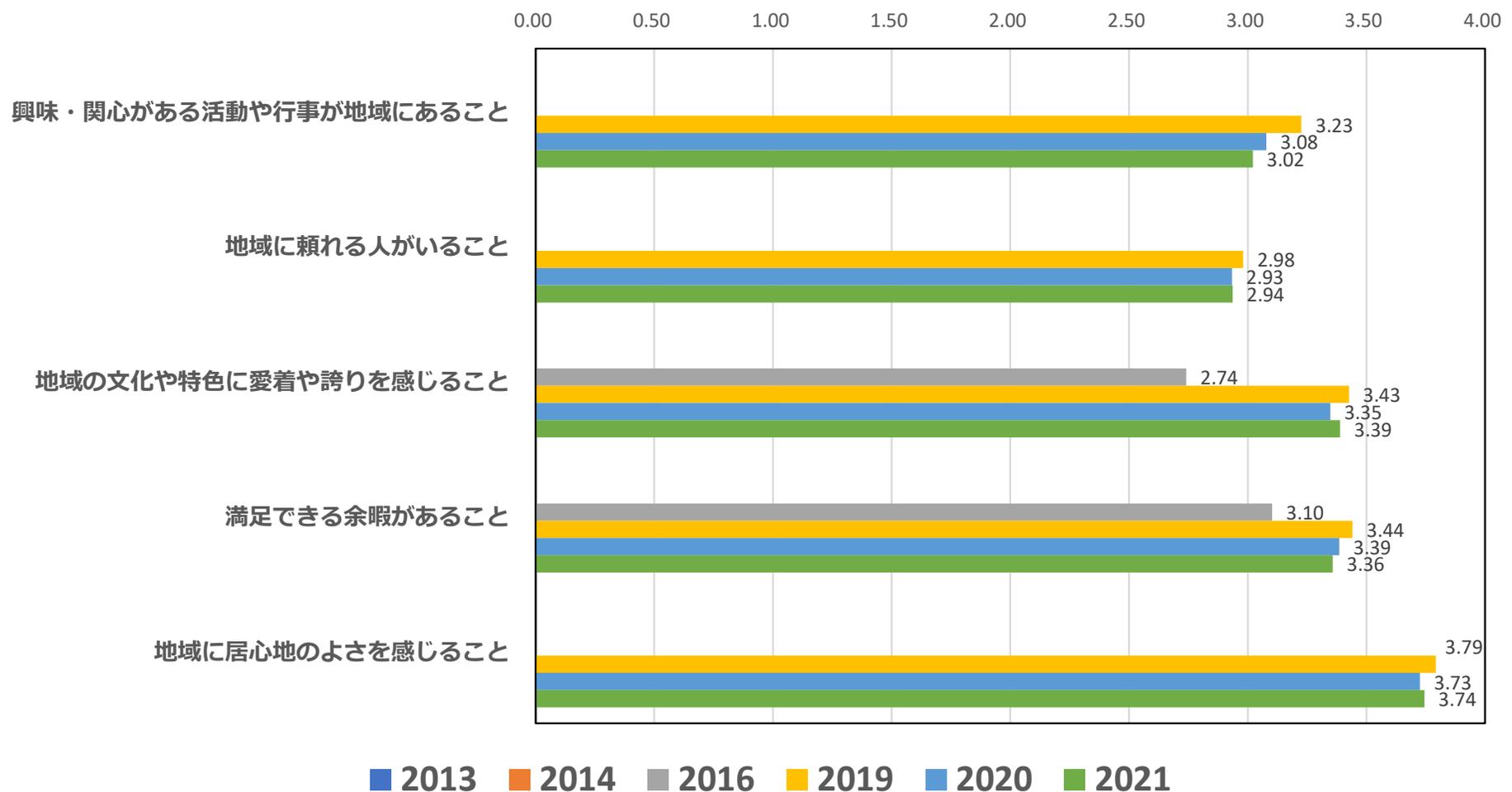
生活環境に関する各項目の平均幸福実感度について、顕著な傾向は見られない。



各分野の平均幸福実感度の推移

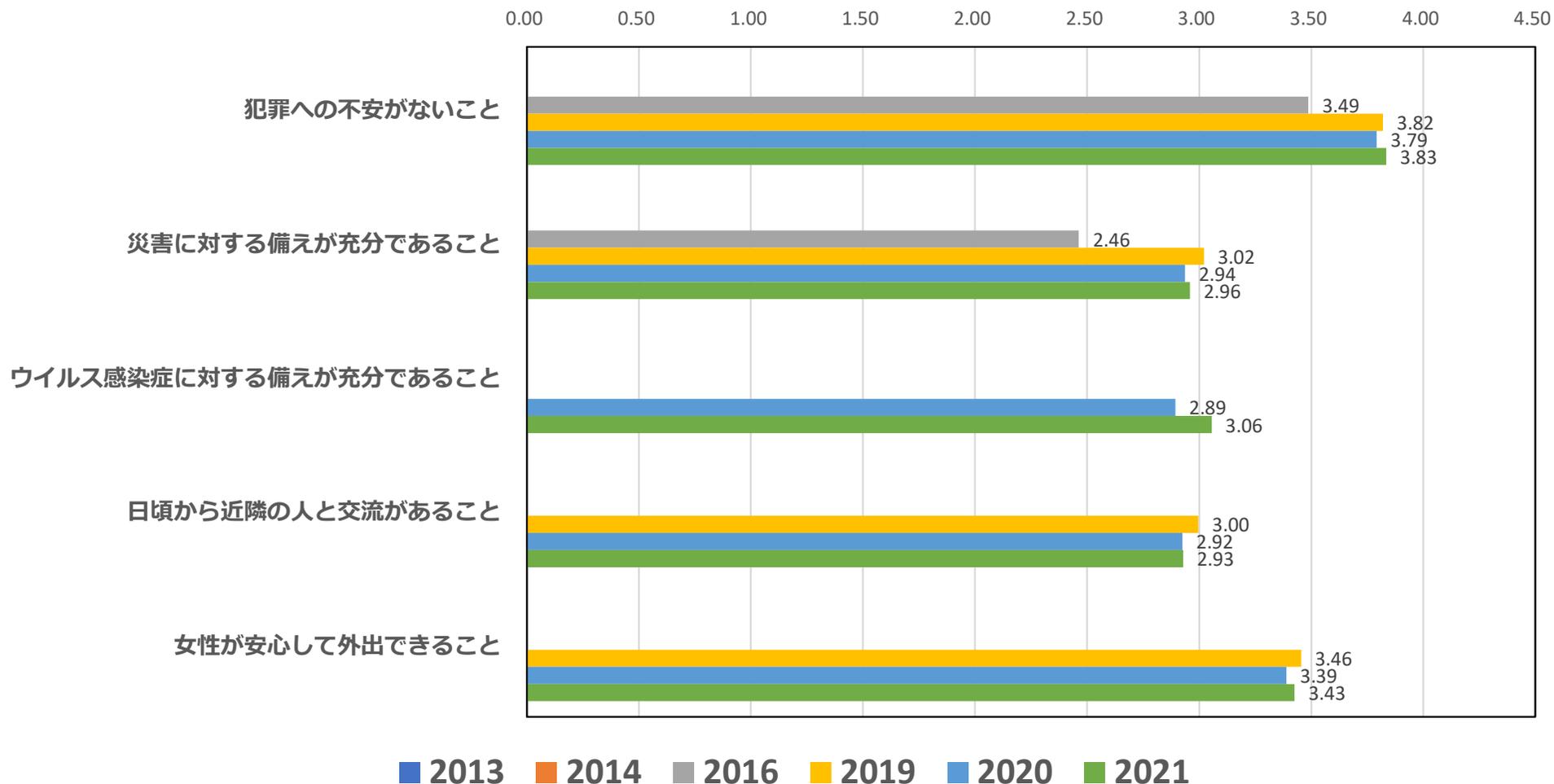
【文化や地域】

文化や地域に関する各項目の平均幸福実感について、下降傾向にある分野は、「興味関心のある活用や行事」。コロナウィルス感染症拡大による地域でのイベント活動の減少が影響として考えられる。一方、文化地域のその他項目について上昇傾向にある事項は見受けられない。



各分野の平均幸福実感度の推移 【安心や安全】

安心や安全に関する各項目の平均幸福実感について、顕著な傾向が見られないものの、ウィルス対策への備えが充分であることについて、2020年度に比べて2021年度の実感が高まっている。



各分野の平均幸福実感度の推移 【高知県について】

高知県に関する各項目の平均幸福実感度について、「住んでいる地域が域外から見て魅力があると感じるか」について、2013年度と2021年度を比較すると、0.2ポイント上昇しており、全体に上昇傾向が高まっている。また、身近に自然を感じられる環境への実感度は上昇トレンドにあるのではと考えられる。

